

G7 外相会合「広島宣言」について

広島県原爆被害者団体協議会

理事長 佐久間邦彦

「広島宣言」は冒頭に「原子爆弾投下により極めて甚大な壊滅と非人間的な苦難という結末を経験し」と述べ

「宣言」の結びで「核兵器は二度と使われてはならないという広島及び長崎の人々の心からの強い願いをともにしている」と述べている。

しかし、宣言の内容は「甚大な壊滅と非人間的な苦難」をもたらした核兵器の廃絶に一切ふれておらず、従って「広島及び長崎の人々の心からの強い願いをともにしている」ととてもいえないものである。

宣言は、北朝鮮、シリア、ウクライナ、イラン、などの状況について現状を、CTBT、カットオフ条約、NPT について述べるにとどまっている。

「甚大な壊滅と非人間的な苦難」を解決するための方途についても、「広島及び長崎の人々の心からの強い願い」である核兵器の廃絶についても言及していない。

これは、国際的な「核兵器禁止条約」の要求の高まりに対し「安全保障から核兵器を考える」と抵抗している側に立っているとしかいえない「宣言」となっている。

私たちは、三月に被爆者が提唱した「核兵器廃絶国際署名」を人々と力を合わせ大きく広げ、広島及び長崎の人々の心からの強い願いである核兵器廃絶をめざし署名運動の推進に力をつくし「被爆者の生きている間の核兵器廃絶の実現」に向け努力することを表明する。